

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4271101786
法人名	特定非営利活動法人 ドリーム福祉介護支援サービス
事業所名	グループホーム どりーむ荘
所在地	〒851-2123 長崎県西彼杵郡長与町平木場郷517-5 (電話)095(883)4100

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成21年2月2日

【情報提供票より】(平成20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	木造ストレート葺平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	水道光熱費・管理費880円/日	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 91 歳	最低	85 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎百合野病院・長与病院・女の都病院・谷歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山々や田園が広がる静かな住宅地にある。ホームには芝生の庭が広がっており、外気を浴びながらお茶や食事を楽しみ、語り合える自然豊かな環境である。近隣の方々とは、気軽に声を掛け合える関係が築けている。遠方から来られる家族には宿泊を提供するなど、来訪された家族と共に本人の居室でゆっくりと過ごせるよう支援されている。職員は、入居者の方々の思慮深さに、人格の尊厳を学ばれており、支え合いの関係が窺える。【みんなで一緒にゆっくり楽しく】をモットーにしていることから分かるように、その日その時のその人らしい暮らしにこだわり、みんなで喜びを分かち合えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については真摯に受け止め、改善計画シートに項目を掲げるほか、スタッフ会議等で検討を重ねている。地域密着型の理念作成や災害備品等については、今年中の完結に向けて取り組み中である。介護計画書には家族同意欄を設け、「重度化の指針」を作成するなど、改善につなげた項目もある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、代表者、管理者および生活相談員で取り組み、職員へは事後報告としていたが、今回は、2ヶ月間かけて勉強会を実施し、評価の意義を理解した上で、職員全員で評価項目を分担し責任を持って取り組んだ。日頃表出しない、職員の仕事に対する意識の確認ができたことなど、成果が十分にあったと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	前回評価時点では未開催であったが、その後4回開催されている。地域性から、会議の運営が困難な状況ではあるが、町または地域包括支援センター職員、民生委員の参加のもと、事業所からの報告や意見交換が行われている。構成員全員の参加に固執せず、入居者家族や関係者が来訪される機会を活用するなど、視点を変えた会議開催の試みを検討されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用料の支払いをホーム窓口としており、毎月家族の面会があるため、定期的に家族の意見等を聴く機会がある。また、家族会はないが、年に1回夏祭りの際に家族が一堂に会する機会もある。また、日常的に家族からの率直な意見や要望などがあり、出された意見などについては直ちに解決に向けて話し合い、家族へ説明すると共に、運営への反映につなげている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	事業所や認知症への理解を広げている段階であり、地元の人々との交流には苦慮されている。しかし、あきらめることなく、まずは地域の枠を広げ、町主催のペーロン大会や花火大会などへの参加を通じて、地域の人々との交流を深めようと地道に努力されている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回評価の改善課題として、地域密着型サービスの意義を含んだ理念作りを挙げ、取り組まれている。現在の理念には愛着があり変更し難いが、誰が見ても分かり易い表現にこだわった理念を、現在も検討中である。今年中には決定したいと表明されていた。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念【みんなで、一緒に、ゆっくり、楽しく】には、「できない所はみんなで協力し、急がなくてもいい、できた喜びをみんなで分かちあいたい」という想いが込められ、モットーにしている。誰が見ても分かり易い理念であると自負している。理念は玄関に掲げ、日々振り返り、職員同士で確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所や認知症への理解を広げている段階であり、地元の人々との交流には苦慮されている。まずは地域の枠を広げ、町主催のペーロン大会や花火大会などへの参加を通じて、地域の人々との交流を深めようと地道に努力されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、2ヶ月間かけて勉強会を実施し、評価の意義を理解した上で、職員全員で評価項目を分担し責任を持って取り組んだ。日頃表出しない、職員の仕事に対する意識の確認ができたことなど、成果が十分にあったと感じている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回評価時点では未開催であったが、その後4回開催されている。地域性から、会議の運営が困難な状況であるが、町または地域包括支援センター職員、民生委員の参加のもと、事業所からの報告や意見交換が行われている。構成員全員の参加に固執せず、家族等が来訪される機会を活用するなど、視点を変えた会議開催の試みを検討されている。		

グループホーム どりーむ荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町との連携は良好である。代表者は、法改正や事務手続き等について、町担当者に、折に触れて質問や相談をしている。町の「ケア会議」にも参加し、情報収集、意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の請求書を送る際、個別に手紙や写真を同封している。利用料の支払いをホーム窓口としており、毎月家族の面会があるため、定期的に口頭での報告ができています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、年に1回夏祭りの際に家族が一堂に会する機会がある。また、日常的に家族からの率直な意見や要望などがあり、出された意見などについては直ちに解決に向けて話し合い、家族へ説明すると共に、運営への反映につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はなく、離職の際は、1ヶ月前申告を基本としており、引き継ぎが十分に行えるように配慮されている。新任職員には研修、指導を行い、逆に入居者がやさしく教えてくれる場面が見られるなど、新任職員の受け入れも良好で、スムーズに交代できている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、勉強会を実施している。職員全員が持ち回りでリーダーとなり、リーダーはテーマに沿って資料を集め講師を務める。可能な範囲で外部研修にも参加している。資格取得についても、勤務体制等全職員で協力している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の「グループホームケア会議」に参加し、交流が図られている。職員同士のボーリング大会もあり、相談し合える関係も構築されている。相互訪問やホーム見学も、代表者自ら率先して行い、サービスの質の向上につなげられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に必ず本人にも来所してもらい、面談して納得してもらうことで、安心感につなげている。やむを得ず、すぐに入居になる場合でも、必ず事前に訪問して本人と面談し、安心してもらえるように心がけている。入居してからは、マンツーマン体制で見守り、必要があれば家族に電話をかけてもらうなどの協力を得ながら、ホームでの生活が安定するのを見極めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験が豊富な入居者の思慮深さや、周りの人達の人格を尊重する姿勢を日々目にし、人としての多くのことを学んでいる。時に入居者の寝顔に癒されると話されていた職員のまなざしが、そのことをやさしく物語っていた。また入居者との会話の中に年長者が持つ生活の知恵が多々あり、さらに物を大切にすることも学んだと話されていた。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人の意向を確認し、家族や関係者から情報を得るようにしている。日々の関わりの中でも、その人らしい暮らし方の支援に努めている。中には、アプローチの工夫によって、本人の隠れた能力を見出すことができたという発見もあり、その都度家族に報告し、喜びを共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いや意向を尊重し、家族や関係者から得た情報を基に、職員全員で課題や支援のあり方を検討し、担当職員が作成している。介護計画は、家族に送付し、確認してもらっているが、家族同意欄への記載が不十分である。		前回評価の改善課題として取組まれ、介護計画書に家族同意欄を設けているが、十分に活用されていない。介護計画書は、地域でその人らしく暮らし続けることを支えていくために必要な重要書類であるという観点から、介護計画書にそって、入居者、家族に説明をされ、同意を得られることが望まれる。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の実践の確認は、ケアチェック表に記入されており、介護計画書には評価の項目を設けている。4か月毎に見直しを行うこととしており、月に1回のスタッフ会議で現状確認を行っている。介護計画が現状に即していなかった場合は、繰り返し検討し、入居前の生活習慣を家族から聞くなどして、新たな介護計画を作成している。		

グループホーム どりーむ荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	玄関を出ると広い芝生の庭があり、気候がいい時は、外気を浴びながら食事やお茶、散歩を楽しむことができる。また、遠方から家族が来訪される際には、宿泊の提供もでき、家族宿泊用の簡易ベッドも備えている。家族が宿泊される際は、夜間に本人と入浴を共にされるなど、ゆっくりと語らえるよう多機能性を活かした支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急事態に対応できるよう24時間体制の協力医療機関へ変更することについて、本人や家族に説明し、了承を得ている。希望に応じ、これまでのかかりつけ医の継続も可能であり、その際の定期受診は家族対応を基本としている。協力医への受診は事業所で対応し、歯科・皮膚科は訪問診療である。受診の際は、独自に作成した受診表に医師からの所見を記載してもらい、家族への報告時に活用している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前回評価の改善課題として取組まれ、「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。現在、本人・家族の意向に沿い、看取り介護にあたっている。このケースについて、家族の協力を前提とし、かかりつけ医の週1回の往診体制を整えている。なお、看取り介護について、医療処置が必要な場合は対象としていない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の失敗や更衣など羞恥に係わる場面では、他者に気づかれないよう小声でさりげなく支援するよう配慮されている。また、入居者のプライドを傷つけることのないよう職員同士で注意し合っている。個人情報の保護についても、周知徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時に本人がしたいと思っていることを大切に、本人の希望に沿った支援を心がけられている。「まだ十分ではない…」と語る管理者の言葉に、さらなる意欲が感じられる。		

グループホーム どりーむ荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたい料理を献立に採り入れ、季節の野菜をふんだんに使っている。色とりどりのランチョンマットに、個々にあった食器を用い、入居者と職員と一緒に食卓を囲んでいる。配膳下膳は個人の能力に応じてしてもらっている。時に、入居者も一緒に食材の買い出しに出かけることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週に3回、おおよその時間帯を設定して、支援されている。入浴を拒む入居者はおらず、ゆったりと入浴を楽しんでおられる。家族が宿泊した際は、夜間、入居者とその家族と一緒に入浴されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の片付けの一連の作業を、入居者が分担し共同で行っており、やりがいを感じている。日記をつける楽しみを見出し、日々感謝の言葉を口にされる方、趣味の読書に興じている方もいる。さらに数名が自発的に集い、音読を楽しまれるなど、それぞれに役割や楽しみごとを持ち、日々過ごされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院受診や食材の買い出し、庭や近隣の散歩など、可能な範囲で支援している。時に、個別の生活必需品を買いに出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間に鍵をかけることはない。外に出て行く気配を感じた時は、ホームの庭や近隣を散歩することで気分転換ができています。また、近隣の方の見守りが常にあり、声かけしてもらえる関係が築けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回評価の改善課題として、防災グッズの準備に取り組まれている。現在は、備品の保管場所の確保の段階で、備品のリストアップや備品交換のチェックリストの作成は済んでいる。今年中には完了させたいと表明されていた。さらに職員だけの誘導の限界を踏まえた上での対策についても、今後の検討課題としている。		

グループホーム どりーむ荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事摂取量をチェックし、1日を通じての水分量の把握にも工夫をこらし、一人ひとりに合った食の支援に努められている。食の楽しみに重点を置きつつ、栄養のバランスにも配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは自然な光が入り、山々や田園風景の眺めが心を和ませる。ソファがゆったりと配置され、入居者それぞれに思い思いの居場所がある様子がうかがえた。リビングや廊下の壁には有名絵画などが飾られ、落ち着いた趣が感じられた。また、浴室とトイレが隣り合わせに配置され、直通的の扉があり、羞恥心など入居者の精神的負担の軽減に配慮された構造となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの絵や写真、本、タンスや椅子など、馴染みの物を活かしている。また、隣り合った居室の境の扉を開放すると、夫婦で入居できる居室も用意されている。		